

■柔道競技より

柔道女子

○：柔道女子個人63キ級は小野の内田成美選手(3年)が頂点に立った。決勝の相手となった江井島(明石市)の橋陽菜乃選手とは初めての対戦。緊張感が漂ったが、両親からの「最後まであきらめずに全力を出し切りなさい」との

63キ級 内田選手(小野)V
磨いた絞め技で一本



女子63キ級を制した内田成美選手(左) 二見中

第43回東播地区中学校総合体育大会(神戸新聞社後援)は10日、東播磨・北播磨の各地で開幕した。陸上の男子走り幅跳びは、北条の藤本涼哉選手が6尺67で優勝。柔道女子63キ級は内田成美選手、同70キ級は田中あい選手、同70キ超級は高木有海選手(いずれも小野)がそれぞれ頂

中学校総合体育大会
東播地区

点に立った。男子は小野勢が6階級を制した。サッカーは小野が11日の準決勝に駒を進めた。軟式野球は北条、兵教大付が1回戦を突破した。

言葉思い返し、自分を奮い立たせた。試合開始直後から果敢に攻め、技をかけて相手の体勢が崩れた機を逃さず、絞め技で一本を取った。「3年生になつてから絞め技の練習を重ねた成果が出た」と笑顔を見せた。11日の団体戦にも出場する予定。「個人戦は得意技

の内股で一本を取れず、悔しい思いをした」と振り返り、「団体戦では内股で勝負を決めたい」と意欲を示した。(長尾亮太)

7月11日(土)神戸新聞(朝刊)掲載記事より

■陸上競技より

○：陸上の女子100㉿障害は、小野の梶尾彩智選手(3年)が15秒12で制した。10日にあった四種競技(100㉿障害、走り高跳び、砲丸投げ、200㉿)の400㉿リレーと合わせて県大会出場を決めた。全国大会出場を目標に、今年からハードル間のスピードを上げる練習を重ねた。1週間前の別の大会では自己ベストを0秒56更新する14秒82をたたき出した。自信を持ってレースに臨んだがスタートで出遅れ。それでも「絶対に勝てる」

陸上女子 100㉿障害
勝利信じ梶尾選手(小野)V



と焦らずに走り、最後のハードルでトップに立った。自己ベストには届かず、少し悔しさが残った。「全国大会に出るためにも、県大会で勝てるようしっかり練習したい」と決意を新たにした。(門田晋一)

陸上女子100㉿障害で優勝した梶尾彩智選手(左から2人目) 二いずれも加古川市西神吉町、加古川運動公園陸上競技場

7月13日(火)神戸新聞(朝刊)掲載記事より

■水泳競技より



女子100メートルバタフライで優勝した小野の村上咲優選手。明石市一見町南二見、明石海浜公園

水泳女子 100メートルバタフライ

村上選手(小野)接戦制す

○：水泳女子の100メートルバタフライは、小野の村上咲優選手(3年)が接戦を制した。

「大きなストローク」が持ち味という村上選手。中盤まであえてペースを落として体力を温存。ターンしてから徐々に追い上げ、最後の25メートルで一気にスピードを上げて先頭集団を抜けた。

優勝したものの自己ベストに及ばず「満足ではない」。新型コロナ禍で練習時間が十分に取れず、中学

7月13日(火)神戸新聞(朝刊)掲載記事より

1、2年時のタイムを上回れないのがはげしい。今大会には100メートルを泳ぎ切る体づくりを意識して練習に取り組んだ。「県大会では、前半からペースを上げて最終盤まで続く体力をつけたい」と大舞台を見据えた。(有富晴貴)

■サッカー競技より



決勝点となるシュートを放つ小野の高田稟太郎選手(左)。加古川市加古川町大野、日岡山公園

小野 延長制しV

○：サッカーは小野が延長戦の末、栄冠に輝いた。望海(明石市)との決勝は勝利目前で追い付かれる展開だったが、延長に入って再び勝ち越し。決勝ゴールを決めたMF高田稟太郎選手(3年)は「格別だった」と喜びに浸った。

1-1で迎えた延長戦、高田選手がゴール前で左足を振り抜く。狙ったけど、

サッカー

入るとは思っていなかった」というシュートは望海のGKの頭上を越え、ゴールに吸い込まれた。

劇的な優勝にも多田佑真主将(3年)は「セットプレーから失点することが多い。近畿大会優勝を目指してディフェンスを強化する」と、県大会に向けて手綱を締めた。(長沢伸一)

7月13日(火)神戸新聞(朝刊)掲載記事より